

目次

序章 契約における文書の作成——分析と課題——	3
はじめに	3
一 本書に関わる研究史	3
(1) 戦前の法制史論	
(2) 一九五〇～七〇年代	
(3) 新パラダイムの形成——中世的文書主義の登場——	
(4) 二〇〇〇年以降のあらたな所有論	
二 本書の視角	13
(1) 双方向の文書の作成と授受	
(2) 「複合して機能する文書」としての売寄進	
(3) 中世後期禅宗寺院における「文書目録」作成と契約文書	
第一部 中世の契約と文書の作成	
第一章 売買における双方向の契約文書	27
はじめに	27

一 古代的売買券から中世的売券への転換	29
二 「売券」を「買券」と称すること	34
三 売買契約の場における売主・買主	40
四 買主を主体とした文書の作成	44
小 括	50

第二章 中世の借用と預状の作成 55

はじめに	55
一 「預り状」と「預け状」	55
二 預け状の形態	58
(1) 文書を預ける	
(2) 下地・得分権・屋敷地を預ける	
三 預け状の作成	65
小 括	75

第三章 処分状の作成 81

はじめに	81
一 処分状の形態	81
二 処分状と「書分」	83

三 権利証文の作成と書分	88
小括	93

第二部 売寄進と同日付売券・寄進状の作成

第四章 売買契約と売寄進	99
--------------	----

はじめに	99
------	----

一 売寄進状の実態	100
-----------	-----

二 買得即時寄進型売寄進と「仲介者」	103
--------------------	-----

三 買得即時寄進型売寄進における買得と上分寄進	113
-------------------------	-----

小括	121
----	-----

第五章 長楽寺復興運動と売寄進	130
-----------------	-----

はじめに	130
------	-----

一 長楽寺における土地売買契約文書	131
-------------------	-----

二 長楽寺の復興と売寄進	137
--------------	-----

小括	144
----	-----

第六章 洞松寺文書にみる売寄進と在地社会	149
----------------------	-----

はじめに	149
------	-----

一 備中洞松寺と伝来文書	150
二 備中洞松寺文書における売寄進	152
三 毛利領国下の検地と打渡坪付	163
四 「洞松寺文書」に見える庄氏	166
(1) 庄元資	
(2) その他の庄氏一族	
小 括	172

第三部 中世後期禪宗寺院における文書目録作成と契約文書

第七章 中世後期曹洞宗寺院の地方伝播

はじめに	183
一 信濃における禪宗史	185
二 十五世紀信濃国における曹洞宗の広がり	186
(1) 霊松寺 (安曇郡)	
(2) 定津院 (小県郡)	
(3) 大洞院 (遠江国周智郡)	
三 如仲天間とその法灯	191
小 括	194

第八章 中世後期地方曹洞宗寺院にみる仏事興行と文書目録の作成 205

はじめに 205

一 如仲天闇の系譜 206

二 洞松寺文書中の「文書目録」 207

三 目録に見える追善のあり方 223

小括 231

附論 北高全祝と龍雲寺 236

はじめに 236

一 戦国大名武田氏と曹洞宗寺院の統制 237

二 北高全祝法語と在地社会における曹洞宗の受容 239

小括 243

第九章 中世後期臨濟宗寺院にみる土地集積と文書目録の作成 247

——「臨照山記録西岸寺規式」の文書目録を中心に——

はじめに 247

一 臨濟宗西岸寺の伝来史料 248

二 西岸寺と在地社会 252

三 寺院の土地集積と目録の作成	261
-----------------	-----

(1) 上野国長楽寺と土地集積

(2) 伊予国観念寺と土地集積

(3) 尾張国妙興寺と土地集積

四 西岸寺文書目録の作成目的	268
----------------	-----

小 括	271
-----	-----

終 章	279
-----	-----

一 契約と文書交換	279
-----------	-----

二 寄進と売買契約としての売寄進	283
------------------	-----

三 宗教文書にみる契約と信仰	287
----------------	-----

四 中世の契約の双方向性——中世的文書主義との関わりから——	295
--------------------------------	-----

初出一覧

あとがき

索引(事項・文書(史料)名・研究者名)・図版一覧

序 章 契約における文書の作成——分析と課題——

はじめに

本書は、中世の土地所有における契約関係の特質について、文書の様式・機能の観点から考察をおこない究明しようとするものである。そこで本章では、筆者の問題意識による土地所有論の研究史を概観し、課題の所在を明らかにしたい。ついでそれらの課題に対する筆者の視角を述べたうえで、本書各論文の位置づけを明示しておく。

一 本書に関わる研究史

中世における土地所有については、大きく八つの研究段階を見いだすことができる。当然時系列で単純に区切ることはできないし、それぞれが多分に影響を及ぼし合って重なる論点もあるが、行論の関係上おおよそその特徴を把握するために記すと次の通りである。

- (1) 戦前 近代法制度確立期における欧米比較法史による視角の中世土地所有論
- (2) 一九五〇年代 マルクス主義史観による「封建的領主制論」
- (3) 一九五三年に安良城盛昭によつて提起された太閤検地論に関わる中世史研究者の批判と「中間層」論
- (4) 一九七〇年代 『土地制度史』の刊行 土地所有は社会の構造的な一面でありこれを総体的にとらえよう

とする「土地制度」論

- (5) 一九七〇年代後半 笠松宏至・勝俣鎮夫らによる在地の中世法発見と検証により明らかにされる土地にまつわる「法観念」論

- (6) 一九八〇年代 券文の所持を所有の根拠とする中世前期の土地所有のあり方を検証した「中世的文書主義」をめぐる議論

寶月圭吾説を継承した菅野文夫らによる質契約・売買契約の本質的未分化を明らかにする
論点

- (7) 一九九〇年代 土地所有の多様性の検出

- (8) 二〇〇〇年以降 『土地所有史』『中世・近世土地所有史の再構築』の刊行とあらたなパラダイムの模索
以下それぞれの論点を整理しながら、本書の位置づけをおこなっていくが、研究史自体膨大な蓄積を持っており、筆者の能力ではその研究のすべてを網羅することはできない。さしあたりこの分類をもとに筆者の関心に基づいて論点を整理することとする。

(1) 戦前の法制史論

土地所有史のなかでまず挙げなくてはならないのは、戦前の中田薫・小早川欣吾などを代表とする法制史研究分野における成果である。後述するように、中田の仕事は古典的な業績に位置づけられるが、とくに一九八〇年代の笠松・勝俣らの研究に大きな影響を与えたことは指摘しなければならない。

日本近代法制度の確立期であった明治時代後半に登場した中田薫は、ローマ法やゲルマン法等との比較のなかで、日本の伝統的な法観念や法慣習がどう位置づけられるかを問題意識として設定し、前近代法制史に大きな足

跡を残した。例えば売買契約の買主保証について中田の論を引用しよう。

我固有法に於ても買主の防禦義務は、終始追奪担保義務の第一義的段階を形作りしものと云ふべし、而して此防禦義務は最初は法定内の防禦に止まりしならんも、已に中世に於て広く一切の保全行為を包括せんとするの傾向を生じたるものの如し。追奪擔保の第二次的補充的責任たる弁償義務は、本錢の返弁より次第に發達して本錢一倍或は本錢加利の弁償となり、遂に徳川時代に於て損害の賠償となるに至りしが、これ亦外国諸法に於ける發達の大勢に一致したる変遷なりと云ふべし（日本古法に於ける追奪担保の沿革⁽¹⁾、傍線筆者）

このように中田は、日本の法慣習がヨーロッパに比べて特殊であることを明らかにすることよりも、むしろヨーロッパの歴史のなかに普遍的に存在する一類型としてこれを位置づけようとしたのである。

比較法学者であつた中田の最大の特徴のひとつは膨大な史料の博搜にあつたが、こうして導き出された重要な視点が、平安後期における土地売買の公券から私券への変化といふものであつた。そして「公券に代はれる私券は、公券が単に売買私約に決定⁽²⁾的効力と所有権移転完成力とを附与したことよりも、更に百尺竿頭一步進めて、売買私約そのもの、成立要件であり、又所有権移転の媒介者である⁽²⁾」と述べ、私文書としての売券が売買契約の成立要件であるという機能的な側面を初めて明らかにした。

中田は、公券から私券へと移り変わっていく過程で、契約段階で券文を作成しないケースが稀に存在することをすでに指摘している⁽³⁾。中田が当初よりいわゆる無券文売買への関心を払っていた事実であり注目されるが、中田自身は「売地私券は慣習法上の所産」であるとして無券文の事例を割愛し検討を深めることはなかつた⁽⁴⁾。しかし周知のように、無券文売買の問題はのちに笠松によつてあらためて提起され、後述する一九八〇年代の土地所有論のあらたな展開のなかで山田渉、菅野文夫らに影響を与えていることは重要だろう。

戦前に活躍した法制史家の小早川欣吾も中田の学説に影響を受けていることが著書からうかがえる。小早川は、⁽⁵⁾

初出一覧

序章 新稿

第一章 新稿

日本古文書学会学術大会（二〇〇九年、足利市）の報告をもとに成稿したものである。

第二章 原題「預け状再考」（『信濃』六一—一二、二〇〇九年）

いま読んでいる「預け状」が預け状なのか、それとも預り状なのか。『醍醐寺文書』を読みながら感じた現代人の素朴な疑問から生まれた論文である。「預ける」「預かる」も一つの契約の場全体で考えるならモノの動きは同じである。第一章の売券・買券同様、双方の文書が契約の場で相互に取り交わされる「双子の契約文書」と考えれば、中世人にとって双方とも「預け状」と称したのだろう。

第三章 原題「中世前期における処分状作成の一様態」（『史学』七七—四、二〇〇九年）

処分状のなかに「書分^{かきわけ}」と記す文書がある。本章は、中世の語彙として書分がどのような広がりをもつものかという素朴な疑問からスタートしたものである。二〇〇八年十二月の暮れも押し迫った高野山の中南区に史料調査に出かけたとき、尾上時一さんをはじめ大勢の地域住民の方にお世話になった。その後雪の龍神スカイラインを走らせ、熊野本宮の中原家文書の調査に向かった。中原さんに頂いた菜園のレモンの香りがすばらしかった。この調査の直後に長男が誕生したため、同時に執筆していた第二章論文とともに思い出深い論文である。

第四章 原題「売寄進状の一形態——買得即時寄進型売寄進の意味——」（『古文書研究』四四・四五合併号、一

九九七年）

東北大学でおこなわれた日本古文書学会大会で報告した内容をもとに、成稿したものである。報告に際し、中野栄夫氏を通じて鈴木鋭彦氏に司会をお願いした。報告後鈴木氏や大石直正氏・入間田宣夫氏から懇切なご教示と励ましをいただいた。このあと長谷川裕子氏・辰田芳雄氏・西谷正浩氏など売寄進に関わる研究が相次いで出されたのも印象深い。長野県立歴史館の井原今朝男先生（当時）のはからいで、寄贈されたばかりの『寶月圭吾研究資料』を閲覧させていただいた。井原先生が「君が売券を研究対象にしてるなんて、まるで寶月先生のお導きだね」とぼつりと仰られたのが記憶される。

第五章 原題「長楽寺救済運動と売寄進」（『年報三田中世史研究』三、一九九六年）

『年報三田中世史研究』第三号の編集に携わり自らも同人の一人として投稿した思い出深い原稿で、売券に関わる最初の論文である。その後、中央大学大学院峰岸純夫先生のゼミと合同でおこなわれた「長楽寺文書」調査で原本を間近に熟覧する機会に恵まれた。

第六章 平成九年度提出の修士論文の一部を大幅に修正し改稿

「洞松寺文書」は昭和二十年代、藤井駿・水野恭一郎編『岡山県古文書集』で紹介された。しかしその後、研究でまったく利用されていない史料であった。院生時代の調査の際は、この寺は無住だった。文書を管理する善源寺（井原市）での調査では、『古文書集』未収録の文書に出会ったり、翻刻されていない端裏書の情報など知見を得ることができ、大きな収穫だった。数年後、洞松寺文書が県指定文化財になったのもうれしかった。当時洞松寺の住職であった森藤正之師の紹介で法泉寺（井原市）の調査も行うこともできた。伊勢氏の氏寺であるこの寺では竹井玄保の売寄進状も実見することができた。信濃出身古澗仁泉開山のお話をして下さった先納親道師もいまや鬼籍に入られた。

第七章 原題「信濃国における曹洞宗寺院創立の歴史的背景」（『年報三田中世史研究』八、二〇〇一年）を一部

改稿したもの

信濃国における曹洞宗の研究は、戦国期における武田氏の宗教統制の視点から、広瀬良弘氏、柴辻俊六氏などの研究がある。しかし、いわゆる草創期における曹洞宗の信濃国における受容の形態は解明されていなかった。南北朝の内乱と国人層の信仰のあり方を類型化したものである。

第八章 修士論文の一部を「地方曹洞宗寺院の文書目録作成の歴史的意義——如仲天閻との関わりから——」

（井原今朝男・牛山佳幸編『東国信濃の古代中世史』岩田書院、二〇〇八年）として改稿

故富澤清人氏による東大寺領水無瀬莊関係の文書目録をもとにした史料復元の手法を自分なりに受け止めた論文である。思えば、学部生を対象とした通年の原典講読での富澤先生は論文での厳格な印象とは異なりとても柔和な方であった。三田の喫茶店白十字で先生を囲んで院生や同級生とお茶するのが楽しみだった。先生に拙文の一本でもお読みいただく機会がなかったことだけが残念である。

補論 原題「戦国期曹洞宗の地方展開と北高全祝」（『信濃』六二—一二、二〇一〇年）

信濃国中世宗教史特集号に掲載されたもの。これまで北高全祝は戦国大名武田氏による宗教統制という枠組みのなかで語られてきた。本稿はそれに学びつつ、法語をもとに、祖師の教義が在地社会にいかに受け入れられていったかを考察したものである。

第九章 原題「中世後期地方禅院の文書目録作成のあり方——『臨照山記録西岸寺規式』の文書目録を中心に

——」（『長野県立歴史館研究紀要』第八号、二〇〇二年）

当初、ある論集企画のために執筆を企図したものである。諸般の事情で出版が沙汰止みとなったため、執筆を中断していたが、博物館に異動したことから、改めて史料調査をおこない書き下ろしたものである。西岸寺住職平野隆道師には、何度も史料調査におつきあいいただいた。平野師からは玉村竹二氏や寶月圭吾氏の思い出話を

ど
『信濃史料』編纂当時のようすを随分とうかがうことができた。
終章 新稿

第3部

〔第7章〕

図1	信濃関係曹洞宗門派一覧	184
図2	創立・改宗寺院数	185
表1	曹洞宗寺院の創建時期(寺伝による)	199
表2	宗良親王のうごき	189
表3	喜山派の分布	192
表4	喜山派のおもな国別分布	192

〔第8章〕

図1	洞松寺文書目録(部分／洞松寺文書／洞松寺蔵)	211
図2	洞松寺文書目録断簡(部分／同上)	213
表1	洞松寺文書一覧	208
表2	文書目録A①(前欠)	221
表3	文書目録A②	222
表4	文書目録B①(後欠)	222
表5	文書目録に見る用途文言	224
表6	「如仲閻老大禪師法語」に見える在家信者と葬送方法	226
表7	洞松寺文書にみえる端裏書	233

〔附論〕

表1	龍雲寺文書・康国寺文書「北高全祝法語」に見る葬送文言	243
----	----------------------------	-----

〔第9章〕

図1	臨照山記録西岸寺規式(部分／西岸寺文書／西岸寺蔵、長野県立歴史館写真提供)	250
図2	南北朝期天竜川流域の武士団	258
図3	飯嶋氏略系図	259
図4	妙興寺文書目録(妙興寺文書／妙興寺蔵)	267
表1	「文書目録」に見える在地武士名と名字の地	257

〔終章〕

図1	禅棟カ翁規式(洞松寺文書／洞松寺蔵)	302
----	--------------------	-----

◆図表一覧◆

第1部

〔第1章〕

図1	僧淨実・宗慶等土地処分状(中南区有文書)	35
図2	善助買券案(中原家文書／個人蔵)	45
図3	足立守家年季作田買券(妙興寺文書／妙興寺蔵)	47

〔第2章〕

図1	小笠原長基預け状(市河文書／本間美術館蔵)	56
----	-----------------------------	----

第2部

〔第4章〕

図1	庄資冬田地売券(洞松寺文書／洞松寺蔵)	115
図2	正慶田地寄進状(同上)	115
図3	源(世良田)義政の売寄進	120

〔第5章〕

図1	「長楽寺文書」中の売券・寄進状の分布	134
図2	源満義畠地売券(長楽寺文書／長楽寺蔵、群馬県立歴史博物館写真提供)	138
表1	「長楽寺文書」所収土地契約文書一覧	132

〔第6章〕

図1	「洞松寺文書」中の土地契約文書	152
図2	文安5年9月27日の売寄進	156
図3	水河貞久・貞納田地売券(洞松寺文書／洞松寺蔵)	158
図4	竹井玄保田地寄進状(同上)	159
図5	文安6年4月21日の売寄進	160
図6	庄氏系譜抄	169
図7	竹井玄保山地寄進状・平盛定売寄進状(法泉寺文書／法泉寺蔵、長野県立歴史館写真提供)	179
表1	当該期洞松寺住持	153
表2	売寄進分類	153
表3	文書目録に見える庄氏の人名	170

研究者名索引

あ

- 相田二郎 6, 20, 53, 55, 57, 75~77, 79,
94, 100, 112, 121, 123
青木啓明 143, 146, 148
青山英幸 24
赤沢計真 15, 16
秋山敬 301
朝尾直弘 304
阿諏訪青美 12, 22
熱田公 100, 123
阿部猛 127
網野善彦 7, 10, 18, 21, 24, 247, 274
安良城盛昭 3, 7, 20, 304
有光友学 176, 304
安藤正人 24

い

- 飯倉晴武 94
飯沼賢司 22
伊木寿一 95
池上裕子 304
池享 163, 165, 176
石井進 10, 21
石母田正 6, 20
市村威人 190, 196, 197, 275
伊藤清郎 123
伊藤喜良 303
伊藤俊一 21
伊藤正敏 73, 80
伊藤良久 246
稲垣泰彦 7, 20, 146
井原今朝男 12, 13, 22, 24, 50, 54, 57, 77,
78, 80, 83, 94, 244, 297, 303
今枝愛真 253, 274, 276, 277
今谷明 275

- 入間田宣夫 9, 20, 176, 303

う

- 上島有 18, 24, 180, 247, 274, 301, 302
上杉和彦 10, 20, 297
牛山佳幸 244, 245
馬田綾子 302
梅津次郎 302
漆原徹 77

え

- 遠藤廣昭 238, 245

お

- 大久保道舟 180, 303
岡野友彦 176
小川信 198, 275
奥田真啓 146
小此木輝之 146
尾崎喜左雄 145
小沼修一 176

か

- 鏡島元隆 235
寛雅博 21
笠松宏至 4, 8~14, 20~22, 28, 43, 52,
54, 57, 77, 80, 127, 128, 147, 154, 175,
273, 277
勝俣鎮夫 4, 8, 10, 11, 23, 123, 304
加藤益幹 163, 165, 166, 176, 177
神谷智 299, 304
河合泰弘 235
川岡勉 265, 276
河音能平 17, 23, 24, 274
神田千里 304
菅野文夫 4, 5, 8~, 11, 20, 21, 34, 53, 54,

お

王子神社文書(紀伊国).....	80
大國郷郷長解(近江国).....	31
大塔軍記・大塔物語.....	188, 196, 257, 258, 276
大中臣実基江寄進状(紀伊国).....	148
大野西垣内借屋二郎畠地売券(紀伊国).....	34
大東家旧蔵文書(大和国).....	52, 54, 80, 95
大谷道海寄進状案(上野国).....	147
大山崎宝積寺文書(山城国).....	289, 302
小笠原長基預け状(信濃国).....	56
奥嶋莊村人置文(近江国).....	39, 88
奥津嶋神社文書(近江国).....	53, 95
小田郡横谷村打渡坪付(備中国).....	166
小田村田・畠・在家帳(紀伊国).....	125
越智一族連署寄進状(伊予国).....	263, 276

か

片山家文書(周防国).....	79
勝尾寺文書(摂津国).....	111, 112, 121, 125, 127, 144, 148, 286~288
亀井家文書(紀伊国).....	54
草島家文書(山城国).....	299
観教下地寄進状(美濃国).....	109
関東下知状(上野国).....	129, 134, 135, 147
観念寺禁制(伊予国).....	276
観念寺寺領注文(伊予国).....	264
観念寺文書(伊予国).....	276, 277
願念屋敷地売券(甲斐国).....	301
官省符在家支配帳(紀伊国).....	125

き

橘谷山大洞院大鐘銘写(遠江).....	232
紀氏女川尻備中局畠地寄進状(摂津国).....	286
紀氏女畠地寄進状(摂津国).....	110, 127
吉備津神社文書(備中国).....	171, 177, 178
吉備津宮正殿御上尊棟札写(備中国).....	178
木村新右衛門元吉田地売券(備中国).....	178, 284
京都大学所蔵文書.....	95
清原末則家地讓状・売券(山城国).....	124, 148

く

空海御手印縁起.....	112, 291
九条道家惣処分状.....	82

文書(史料)名索引

あ

阿古女・浄鎮連署田地寄進状(越前国).....	108
朝倉景高安堵状(越前国).....	303
足利義詮御判御教書(尾張国).....	277
足利義詮御判御教書案(伊予国).....	252
阿蘇文書(肥後国).....	78
足立守家年季作田買券(尾張国).....	46
吾妻鏡.....	147, 276
尼心阿畠地寄進状(大和国).....	106
尼善阿弥畠地寄進状(山城国).....	302
在原広綱田地売券(大和国).....	32
安養院誓秀預け状(紀伊国).....	74
安養寺文書(紀伊国).....	144, 148

い

飯嶋家系図.....	259~261, 276
市河文書(信濃国).....	77
伊那温知集.....	196, 197
稲垣文書(摂津国).....	78
犬追物手組日記.....	178
今堀日吉神社文書(近江国).....	31, 95, 102, 124
蔭涼軒目録.....	196

う

上之番之惣中畠地売渡状案(紀伊国).....	46
宇佐永弘文書(豊後国).....	79
宇佐保重置文(豊後国).....	66
売人出雲・買人平連署家地売券(大和国).....	52

え

衛門田地下地作職預り状(山城国).....	67
円通松堂禅師語録.....	232
円法田地譲状(山城国).....	78
延宝伝燈録.....	232

一道寿(豊前入道、備中国守護代)	178, 210, 218
為勝(請使)	33
出雲貞清	33
伊勢氏	180, 194, 285
一家長	180
一盛定	180
一盛時(新九郎)	180
伊勢神宮	299, 300
市河頼房	56
一部寄進・一部壳却型壳寄進(Ⅱ型壳寄進)	100, 103, 104, 112, 121, 122, 124, 130, 145, 154, 155, 161, 163
一夜莊(大和国)	40
厳島神社	63
伊都郡(紀伊国)	42
稻瀬川(相模国)	59
坐公文	249, 270
位牌料	173
今堀郷(近江国)	102
違乱忌避文言	31, 99, 161
蔭涼軒	249

う

上杉氏	236, 238
一憲顯(民部大輔)	190
上田弥一郎	157
上之番之惣中(紀伊国)	46
上原郷(備中国)	178
請け返し	61
請使	32, 33, 40, 41
請取状	13, 93, 140, 297
請人	34, 47, 80, 298
請文	47~49, 67~69, 87, 93, 279, 280
宇佐八幡宮(豊前国)	65, 66
氏寺	17, 113, 121, 126, 139~143, 151, 157, 161, 171, 177, 194, 208, 230, 262 ~264, 267, 270, 272, 283, 289
宇宙印	176
打渡(状)	152, 164, 165
打渡坪付	165, 166, 178
有徳(有徳人)	57, 113, 121, 136, 142, 143, 173, 283

海野小太郎善幸 191
裏封 85, 91
裏を毀つ 51, 296
売寄進(沽寄進) 11, 15~17, 23, 51, 78,
99, 101~103, 105, 108, 110~111,
116, 117, 121~125, 127, 130, 131,
137, 141~146, 151, 152, 154, 161,
163, 168, 175, 262, 263, 273, 283, 292,
298
売寄進行為 16, 24, 99, 154, 156
売寄進状 16, 38, 99, 105, 123, 154, 162, 302
売券(沽券) 5, 14~17, 23, 27~29, 31~
34, 36~42, 44, 45, 49~51, 60, 63, 77,
86, 89, 93, 99, 101, 102, 105, 108, 113,
117, 119~121, 125, 130, 134~137,
141, 143, 145, 146, 150, 151, 154, 160
~162, 175, 176, 207, 223, 262, 264,
266, 279, 282, 283, 287, 289, 293, 295,
297~300
売券に付された黒印 160
売譲 11, 23, 51, 78, 101, 102, 130, 298
上穂山(信濃国) 188, 206
上分 120, 121, 157, 230, 284, 291, 292
上分寄進 113, 161, 292, 302
雲洞院(越後国) 240
海野氏 187~189, 191, 206, 236

元

荣西	262
永作手	7
永称寺(備中国)	193, 198
永代壳	10, 63
荣朝	262
永仁の徳政令	123
永平寺(越前国)	186, 195, 240
慧稠	167
荏原庄(備中国)	180, 193
恵明	191, 206
円爾	263
円通院(遠江国)	207

事項索引

あ

相木氏	238
青木文蔵(昆陽)	298
赤沢但馬守	258
赤須氏	258
秋葉道	189, 190, 193
明白	32, 75
下火	230
阿古女	109~111, 122, 126, 127
朝倉氏	294, 299
—景高	293, 294
—光玖	294
足利氏	
—尊氏	262, 266
—直義	188
—基氏	118
—義詮	253, 266, 270, 277
—義教	278
—義政	278
—義満	270
預り状	14, 15, 23, 47, 51, 55, 57, 58, 64, 66~70, 75, 76, 78, 280, 295
預置	39, 55, 65
足助氏	189
預け状	15, 47, 55~58, 60, 61, 64, 65, 67, 69, 70, 73~77, 280, 295
足立守家(十郎右衛門)	46, 47
姉小路烏丸(山城国)	90
荒尾氏	266, 267
—宗顕	266
在原氏	
—広綱	32, 33
—広縄	76
安国寺(信濃国)	187
安国寺恵瓊	166

案主	160
案主給	160
案文に加判する	86, 89, 90
安養院(紀伊国)	74
安楽寺(信濃国)	185, 239

い

井伊氏	189, 197
飯嶋氏	249, 251, 254, 256, 257, 259~ 261, 268, 270, 272
—為観	255, 259, 260
—為空	255, 259, 260
—総昌	254, 268
—為清	259
—為重(孫三郎入道)	260
—為高(弾正左衛門入道総昌)	259, 260
—為光(掃部入道為源)	254, 259~261
—為盛(修理助入道正運)	254, 259, 260, 268
—為盛(彦八郎入道道曇)	260
—為泰	260
—道都	260
—廣忠	260
—法玉	260
—法勝	260
—益房	255
飯田氏	197
飯田莊(遠江国)	189, 206
飯田城(遠江国)	189
飯沼氏	256, 257
—道都(源藏入入道)	260
—幸憲	256
—六郎	257
伊賀良莊(信濃国)	190
石川氏(備中国守護代)	178, 191, 207

◎著者略歴◎

村石 正行 (むらいし まさゆき)

1971年長野県生。1997年慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。長野県望月高等学校、長野県立歴史館専門主事・学芸員を経て現在長野県松本蟻ヶ崎高等学校教諭。博士(史学 慶應義塾大学)。

〔主要論文〕

「室町幕府奉行人諏訪氏の基礎的考察」(『長野県立歴史館研究紀要』10号, 2005年), 「諏訪社に残された足利義政の願文」(『年報三田中世史研究』14号, 2007年), 「治承寿永内乱期の本曾義仲・信濃武士と地域間ネットワーク」(『長野県立歴史館研究紀要』16号, 2010年), 「14世紀内乱期の守護所と善光寺周辺」(『善光寺の中世』高志書院, 2010年), 「鎌倉時代の『款状』とその機能」(『信濃』64巻12号, 2012年)。

ちゅうせい けいやくしゃかい もんじょ
中世の契約社会と文書

2013(平成25)年2月28日発行

定価: 本体7,500円(税別)

著者 村石正行

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷 株式会社 図書印刷
製本 同朋舎

©M. Muraishi

ISBN978-4-7842-1668-0 C3021